

ふれあい通信

陽春号

地域につなぐ、地域とつながる学校へ ～地域連携重点推進モデル校の取り組み～

地域連携重点推進モデル校とは、地域連携教員を中心とした学校全体での組織的・計画的・継続的な地域連携活動に係る実践的な研究を行い、地域と連携した特色ある学校づくりを推進している学校です。今年度管内では、矢板市立片岡中学校、那須烏山市立境小学校の2校がモデル校に指定されましたので、その主な取組について紹介します。

☆矢板市立片岡中学校☆

片岡地区コミュニティ推進協議会との連携を核として、生徒会を中心に地域のあいさつ運動や片岡コミュニティ祭に参画し、地域と連携した活動に取り組みました。

生徒会の呼びかけで集まった生徒たちは、協議会の方と共に地域住民にあいさつをしたり、片岡コミュニティ祭で高齢者に寄せ植えを贈ったりする活動を通して、地域の方と積極的にコミュニケーションを取ることができたそうです。

どちらの取組も好評で、多くの生徒たちが地域との結びつきを実感し、活動への意欲を高めていたとのことでした。



【高齢者への寄せ植え配布】

☆那須烏山市立境小学校☆

地域の伝統芸能などの豊富な教育資源や地域の人材を生かして、地域と連携した活動の充実に取り組みました。

5・6年生の総合的な学習の時間に、『下境小宅流囃子方保存会』の協力を得てお囃子体験を実施したり、「学力向上プラン」との連携事業として、言語活動に対する関心を深めるために、地元の方に俳句作りの指導をお願いし、校内俳句大会を実施したりしたそうです。

多くの児童にとって、郷土のよさを発見し、それを守り伝えていくことの大切さを、身をもって学習するよい機会となっているとのことでした。



【お囃子の練習】

2校とも、地域にある団体や人材との連携の在り方を、学校や地域の実態に応じて見直し、地域連携の効果を発揮したすばらしい取組です。この取組は、年度末に発行される県内のモデル校の実践事例を掲載したリーフレット（全職員配布）で紹介されますので、今後の取組の参考にしてください。

栃木県教育研究発表大会

地域連携が学校経営に与える効果に関する調査研究発表

平成 27 年 1 月 30 日、31 日に県総合教育センターにおいて、栃木県教育研究発表大会が開催されました。生涯学習部会では、高德晃社会教育主事による地域連携が学校経営に与える効果の調査結果発表がありました。

～地域連携が学校に与える効果～

- 1 学校を開くことで、地域は学校に応える。
- 2 幅広い教育活動が可能になる。
- 3 教職員の意識が変わる。
- 4 児童生徒の豊かな心の醸成につながる。
- 5 地域連携教員の活躍への期待が大きい。

※ まとめとして5つの内容が示されました。



【生涯学習部会の様子】

約2400名が学んだとちぎ子どもの未来創造大学！

平成26年7月に、子どもたちの学力向上の基礎づくりのために必要な「学ぶ意欲を高め主体的に学習に取り組む態度」を身につけることを目的にスタートした、『とちぎ子どもの未来創造大学』も、平成27年3月をもって、今年度のすべての講座を終了しました。約2400名の子どもたちが、講座に参加しました。

管内では、11月に矢板市、高根沢町において、帝京大学関根久教授による出前講座『会話し梯子登りもする人型ロボット』を開催しました。どちらもロボットに関心をもつ小中学生が参加し、ロボットの操作や会話体験などを通して、ロボットの仕組みや役割について、楽しく学びました。

平成27年2月21日に開催された受講者交流学習では、10単位以上取得した学生として那珂川町立馬頭小学校6年生、高根沢町立阿久津小学校5年生、矢板市立安沢小学校4年生の3名が奨励賞を受賞しました。

来年度は、文系コース（文学・芸術、歴史・考古学、地理・社会）と学び方コースを加えて講座を充実させ、より広く、深く学べるようにする予定です。



講座の様子（矢板市）



講座の様子（高根沢町）

高校生読書活動推進事業 「高校生読書交流会」

県教育委員会生涯学習課では、高校生の読書活動を推進するため、高校生による読書活動推進リーダー「読書コンシェルジュ」が企画したプログラムによる、高校生を対象にした読書交流会を、県内3地域（県央・県南・県北）において開催しました。

県北地域では、平成27年1月25日に矢板市文化会館で開催しました。

読書コンシェルジュが、POP作り体験やビブリオバトル（書評合戦）等を通して参加者と交流しながら、読書の意義や楽しみ方を伝えてくれました。



【交流会の様子】

<指標>

1か月に本をほとんど読まない児童・生徒の割合（不読率）		
高校生	基準 H24	H30目標
	59.5%	45%以下

子どもの読書活動推進計画第三期より

授業や事業、研修の合間に！ ～アイスブレイキング～

【大切な日ラインのやり方】

- 1 「大切な日」を考える。
- 2 起点となる1月1日と12月31日の位置を決め、「大切な日」の日にち順に、言葉を使わずに円の形に並ぶ。
- 3 円をつくり終わったら、1月1日に近い人から時計回りに自分の「大切な日」はいつであり、その日はどのような日であるか発表する。
- 4 日にち順を間違わずに円ができたときには、お互いに拍手をして達成感を味わう。間違えたときには、言葉を使わないコミュニケーションの奥深さを確認し合う。

※ アイスブレイキングとは、「固い氷（アイス）を溶かす（ブレイク）」という意味から、会議や研修等で、参加者の緊張をほぐしたり、場を和ませたりする手法です。



〇あひなご〇

「春うらら」という言葉があります。空が晴れ、日が柔らかく静かで穏やかな様子を表す言葉です。「うらら」は、「うらうら」を略した言葉で、日差しが明るく穏やかな様子を意味し、元々は「ゆらゆら」から転じた言葉です。「ゆらゆら」の意味は急がず、悠々とした様子を表します。春の気持ちよさを表すよい言葉ですので、そんな日を迎えたらぜひ使ってみてください。

塩谷南那須教育事務所

ふれあい学習課



TEL：0287(43)0176

FAX：0287(43)0535